

食卓で使う今月の作物

ハダイコン

Radish Greens

ダイコンを栽培するときに、間引き菜を楽しみにされる方も多いですね。ハダイコンは、葉だけを食べるために改良された品種です。

栽培のポイント

① 作付け場所の注意

寒さに強くてほぼ一年中つくれますが、アブラナ科野菜なので連作障害が出ます。一度栽培した場所では、一年以上は作付けを避けましょう。

② 肥料切れのないように管理しましょう

堆肥を畑全面にまいて耕しておき、さらに追肥で肥料が切れないようにしましょう。また、丁寧に間引きをして込みすぎないように育てましょう。

③ 農薬使用の注意

原則は「ダイコン」に登録のある農薬がハダイコンに使えますが、一部「間引き菜、つまみ菜に使用しない」と注意書きがある農薬は使えませんので、注意しましょう。

☆使用できない農薬の一例

ジエイエース粒剤、アドマイヤー1粒剤、スタークル粒剤、ユニフォーム粒剤、アクタラ粒剤5

ビタミンが多く、漬物・和え物・炒め物と用途もいろいろ。すぐに収穫できる家庭菜園向きの野菜です

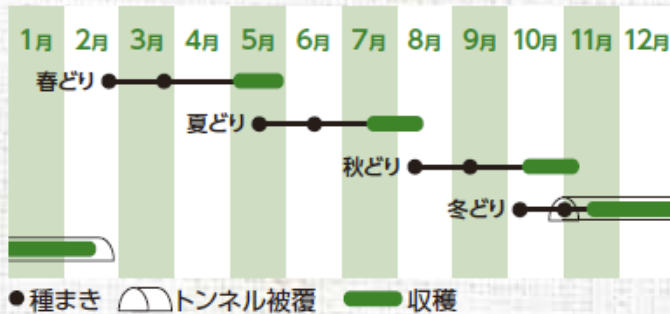


営農指導員(TAC) 竹田 弘二



✂ キリトリ線に沿ってお切りください

栽培カレンダー



いまさら聞けない農作業のコツ!

知っておきたい 農薬の剤型

農薬には色々な種類がありますが、「剤型」による違いを知っておくと、より安全に使えて散布を楽にできます。

○ 粒剤

細粒の製剤で、飛散が少なく、成分が根などから吸収されます。

○ 粉剤・DL粉剤

粉状の製剤をそのまま使うので、作業性は良いものの飛散が課題でした。飛散を少なくしたものを、「DL粉剤」といいます。

○ 水和剤

粉末を水に混ぜて使います。比較的植物に影響が少なく、成分が沈殿しやすい特性があります。

○ フロアブル剤

水和剤の成分を水などに溶いた液状の農薬で、使う前に原液の容器をよく振り、水に溶いて使います。

○ 乳剤

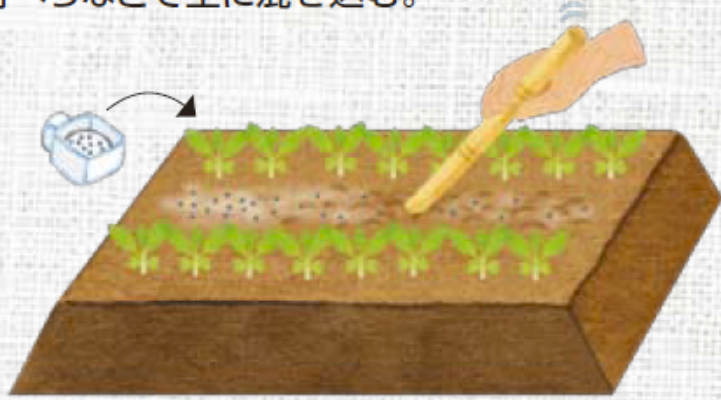
水に溶けにくい成分を有機溶媒などに溶いた液状の農薬で、水に溶いて使います。やや薬害が出やすいので、注意しましょう。

○ 水溶性

粉状・粒状の製剤を水に溶いて使います。成分が水に溶けやすいので、沈殿しにくく作物が汚れにくい特徴があります。

3 追肥

- 化成肥料大さじ2分の1杯を列の間にばらまき、竹べらなどで土に混ぜ込む。



4 保温・防寒

- 春早くまくときには、ビニールフィルムまたはポリフィルムで覆って防寒する。



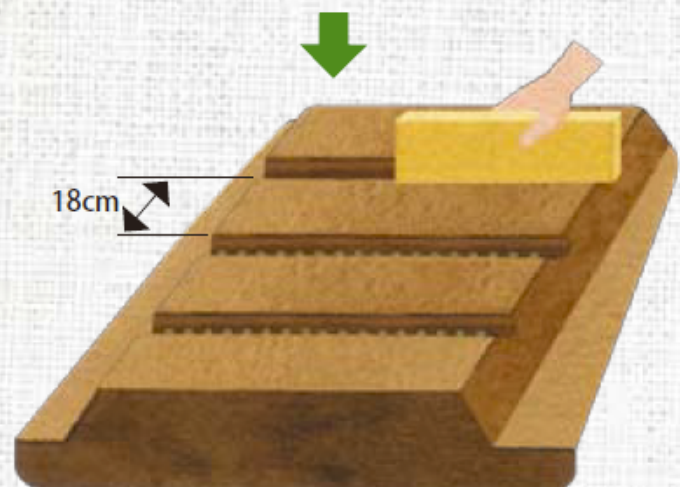
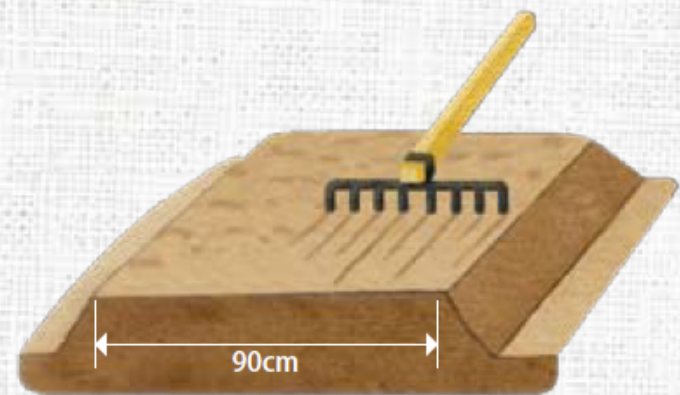
5 収穫・利用

- 草丈25cm以上に育ったら、株元から引き抜き、収穫して利用する。



1 畑の準備・種まき

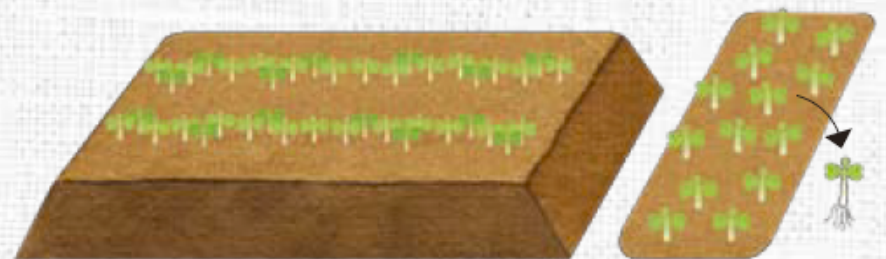
- 種まきの5~7日前に、1㎡当たり完熟堆肥4~5握り、化成肥料大さじ3杯、油粕大さじ5杯をばらまき、15~20cmの深さによく耕す。
- 表面をていねいにならした後、板切れで幅2cm深さ1cmの溝をつけて1.5~2cm間隔に種をまく。



2 間引き

- 発芽ぞろいのころ、込み合ったところを間引く。本葉3枚のとき、3cm間隔に間引く。
- 最終株間を7~8cmになるように間引く。

第1回 発芽ぞろいのころ、込み合ったところを間引く



第2回 本葉3枚のとき3cm間隔に

